



平成26年度

国際海事機関(IMO)と連携したPSC地域組織への
専門家派遣

南米PSC地域組織への専門家派遣

事業報告書



公益財団法人 東京エムオウユウ事務局

目次

I	事業の目的	-----	3
II	平成 26 年度の活動概要	-----	4
III	研修の成果	-----	6
IV	おわりに	-----	9

添付資料

1	ペルーでの事前調査報告書	-----	10
2	ペルーでの研修報告書	-----	24

I 事業の目的

公益財団法人東京エムオウユウ事務局は、「アジア太平洋地域の寄港国検査（Port State Control : PSC）に関する覚書（MOU）」が1993年12月に締結されたのを契機に設立されました。この覚書は東京で締結されたため、通称、「東京 MOU」と呼ばれています。東京 MOU の目的は、加盟した海事当局が協力してサブスタンダード（基準不適合）船を撲滅し、海上安全や海洋環境の保全を確保することです。現在 19 カ国・地域が加盟しています。

この目的を達成するには、PSC を執行する各国職員の養成や能力向上が不可欠であり、本財団は、1994 年の設立以来、域内各国で研修やセミナーを実施してきました。この効果もあり、東京 MOU 域内の検査件数は、先行した欧州の PSC 地域組織（通称パリ MOU、1982 年設立）を上回るまでになりました。

東京 MOU 域内の検査件数は伸びましたが、中国などの経済発展により入域隻数は近年大幅に増え、検査できない船も多く存在します。東京 MOU 域内の検査体制を一層強化する必要がありますが、各国とも職員的大幅な増員は難しい状況です。また、研修等によって検査技術の向上を図り効率を上げる努力も続けていますが、限界もあります。

このため、隣接する地域組織と連携を図り、東京 MOU 地域と隣接地域を往来する船舶に対する検査を確実に実施することが適切と考えました。この連携を実現するため、日本財団の支援を得て、検査技術・件数も十分とは言えない隣接する PSC 地域組織に東京 MOU 域内の専門家を派遣し、能力アップを図る事業を始めることとしました。まず、インド洋地域に対し、2009 年度から 2011 年度まで 3 カ年計画で実施しました。

インド洋 MOU 本事業により研修の重要性を認識し、2013 年からはオーストラリアの資金援助により独自の研修を実施するようになりました。この研修により、インド洋 MOU の能力アップが継続的に図れるようになりました。なお、東京 MOU はインド洋 MOU に対し研修ノウハウを提供するとともに、要請により専門家を派遣しています。

インド洋地域への事業から本事業の有益性を把握し、研修参加者に対する旅費を支援してくれるようになった国際海事機関（IMO）と連携し、2012 年度からは 3 カ年計画で南米地域へ専門家を派遣、現地で研修を実施しています。本報告書は、エクアドル、アルゼンチンに引き続き、南米地域への専門家派遣事業の最終年のペルーでの活動をまとめたものです。

II 平成26年度の活動概要

1. 事前準備

1) 平成26年11月10日～13日にニュージーランドのクイーンズタウンにて開催された東京MOU・PSC委員会の際、ペルーへの専門家派遣について各国に打診したところ、豪州、カナダ、チリ、日本、ニュージーランドなどが前向きな姿勢を示しました。その後、諸般の事情を考慮し、カナダ及び日本から各1名ずつ、チリから2名合計4名の専門家を派遣することにしました。また、現地で研修開催国及び専門家との調整を行うため、当財団職員1名を同国に派遣することにしました。

2. ペルーへの事前調査

1) 平成27年1月21日～29日に、ペルーの海事当局の在るカヤオ及び首都リマを訪問し、研修計画について協議を行うとともに、研修施設の調査を行いました。また、事前にメールで調整していた平成27年3月16日～27日の開催で問題がないことを確認しました。事前調査の詳細については、添付1をご覧ください。

3. ペルー・リマでの研修

1) 研修は、平成27年3月16日～27日に開催されました。南米での過去2年の研修に引き続き、国際海事機関（IMO）が計画段階からこの研修に関心を示し、南米PSC地域組織以外からの参加者6名と南米PSC地域組織域内からの参加者2名、合計8名の旅費を負担してくれることになりました。参加者は合計25名で、南米PSC地域組織域内からは、ペルー13名、アルゼンチン1名、ブラジル1名、チリ1名、エクアドル1名、ホンジュラス1名（IMO負担）、パナマ1名（IMO負担）、域外からは、コートジボアール1名、トルコ1名、ジャマイカ1名、スリランカ1名、ヨルダン1名及びバーレーン1名の計6名（IMO負担）が参加しました。

2) 研修準備に当たっては、過去2年間の各地（エクアドル及びアルゼンチン）での研修結果を考慮し、研修生の経験・レベルに応じ、柔軟な講義とするため、ケーススタディ等の充実を図りました。

3) 南米にはスペイン語等英語以外の言語を母国語とする国が多く、欠陥の英語での書き方(deficiency wording)に関する講座を開催してほしいとの要請があり、開催しました。この講義は、英語を母国語としていない多くの参加者に好評を博しました。

4) 研修は無事終了し、多くの参加者から、自国にはPSCに特化した研修がなかったので、貴重な機会であったとの声がありました。ペルーは、今後、東京MOUの正メンバーとして、東京MOUの研修プログラムに積極的に参加していきたい意向のようです。

5) ペルー研修の詳細については、添付2をご覧ください。



III 研修の成果

1. 検査件数

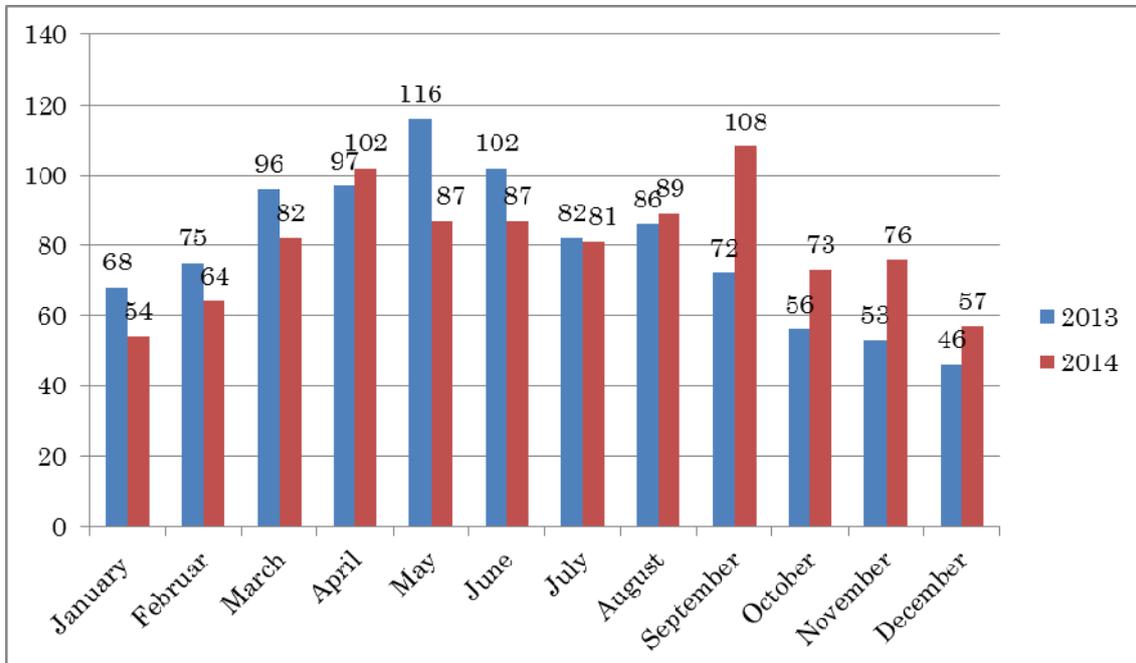
1) 検査件数は、PSC の活動状況を判断する重要な指標の1つです。昨年度までに研修を実施した2カ国及び本年度実施国ペルーでの、2012年から2014年間の検査件数の推移は下表のとおりです。

表1 研修国の検査件数

暦年（研修実施時期）	2012	2013	2014
エクアドル（2013年3月）	47	86	111
アルゼンチン（2014年3月）	1,023	946	960
ペルー（2015年3月）	503	440	481
合計	1,573	1,472	1,552

2) エクアドルでは、2012年3月にPSCが海軍から運輸公共事業省に委譲されましたが、研修年の2013年に検査件数が約2倍に伸びました。2014年も、前年に比べ約30%の伸びを示しています。一方、アルゼンチンでは研修実施年（2014年3月）の8月以降、検査数が毎月、前年同月の検査数を超えています(表2参照)。両国では研修の結果、検査手法や判断基準などが徹底され、効率的なPSCが行われるようになり、検査件数が伸びたと考えています。

表2 アルゼンチンにおける月別PSC検査件数（2013年及び2014年）



3) エクアドルとアルゼンチンでは5-6名の自国PSC職員が研修に参加し、その後研修内容がPSC関係者に伝達・徹底され、早期に上記の成果が表れたと考えています。一方、研修実施国以外からの参加者は、多くの場合、各国1名です。このため、研修参加者から当該国のPSC職員に研修内容が伝達され成果が現れるのには、更に時間を要すると

思われます。

2. 英語

1) PSC は世界のどこでも英語で行われますが、スペイン語等英語以外の言語を母国語とする国が多い中南米地域の PSC 官には、英語でのコミュニケーションに慣れていない傾向が見受けられました。彼らにとって、英語で行う研修を受講する機会は稀有であり、講義でのやり取りは多いに参考となったようでした。

、2) また、座学での英語の資料は彼らの貴重な教材となります。今後、彼らがこれを活かし経験を積み、円滑に PSC を実施できるようになることを期待しています。

3. マニュアル

1) 各国が異なる検査手法や判断基準で PSC を行えば、不公平が生じます。このため、東京 MOU では PSC マニュアルを整備し、かつ、年 2 回最新の技術情報等を取り入れるための見直しを行っています。また、マニュアルの内容は、研修により PSC 職員に徹底しています。

2) 南米 PSC 地域組織にもマニュアルが存在しますが、膨大な情報が整理されておらず、参照したい項目を容易に探せる機能もなく、使い勝手は良くないようです。また、東京 MOU のマニュアルほど、頻繁に更新されていません。今後、既に東京 MOU 加盟国のチリは、本年 10 月に正メンバーとなる予定のペルーと協力し、中南米 PSC 地域のマニュアル改善を働きかける予定です。

4. その他

1) 研修参加者のレベルや経験には大きなバラつきがあり、PSC を執行したことのない参加者やごく初心者もいました。このため、実際の欠陥状況の写真等を多用し、分かりやすい講義としました。また、研修参加者が少人数で議論するケーススタディーも取り入れ、経験や知識が少ない者も討議に参加する環境を作りました。このような研修ノウハウは、今後の PSC 途上国支援に役立つものと考えています。

2) 3 年間に亘る南米地域 PSC 地域組織での研修の実施は、自ずと東京 MOU の活動が理解される機会となりました。この研修を契機に、南米地域 PSC 地域組織では、東京 MOU の検査手順のみならず、いくつかの制度を取り入れる結果となりました。例えば、2013 年に南米 PSC 地域組織への加盟の条件・手順を東京 MOU のそれに倣い制定したこと、2014 年に東京 MOU に倣って検査を初期検査(initial inspection)と追加検査(follow-up inspection)に分けることにしたこと等が挙げられます。従って、この研修は、検査手法の統一化・グローバル化に寄与したと考えられます。

3) ペルーは、2012 年に東京 MOU の準メンバーとなりました。その後 3 年間で東京 MOU の PSC 手順を学び、国内の制度を整えてきました。従って、今回の研修の誘致にも積極的でした。順調に行けば、2015 年の 10 月の東京 MOU の PSC 委員会にて、20 番目の正式メンバーとして承認される予定です。

4) 国際海事機関 (IMO) が本研修に関心を持ち、有用性を認め、インド洋研修に引き続き、毎回の加者数名に対し、研修参加旅費を負担するようになりました。IMO は、PSC

が強い公権力の行使になるにもかかわらず適切な行使を教える研修の機会が少ないとの認識から、このような支援を実施したと考えています。

IV おわりに

1. インド洋 MOU に引き続き、3 年間に亘り南米 PSC 地域組織に東京 MOU から専門家を派遣し研修を行ってきました。研修を実施した 3 カ国に共通していたのは、ほとんどの PSC 官は他業務を兼務しており、十分な専門知識も持たず PSC 業務を行っていたことです。この研修により、PSC 職員の能力向上に寄与できたと考えています。研修を行った国では、研修後に検査件数が増加するなどの成果がありました。

2. 南米 PSC 地域組織では、東京 MOU が実施しているような加盟国の PSC 職員に対する研修が実施されていません。本事業によって南米 PSC 地域組織は、独自の研修システム確立の必要性を強く認識しました。このため、2014 年の PSC 委員会で研修を実施するための資金確保について話し合われました。加盟する各国が資金を拠出する方向で協議が進められており、近い将来、独自の研修システムが確立されることを期待しています。

3. 当財団としては、南米 PSC 地域組織の検査データ等をフォローし、研修成果の把握に努めたいと思います。また、独自研修についても要請があれば次のような協力を行ってきたいと考えています。

- 1) 研修を企画立案するに際して、当財団が有する研修ノウハウを提供する。
- 2) 研修実施に際して東京 MOU から専門家をリクルートし、派遣する。

4. 国際海事機関（IMO）の費用負担により本事業の研修に参加した他地域 MOU の PSC 職員からは、PSC に関する研修がないため他地域でも同様の研修を行ってほしいとの多くの要望を受けました。当財団としては、来年度から中近東 MOU での研修を計画しています。また、IMO は、世界的に見て PSC に特化した研修が少ないため、東京 MOU の研修に関心を持っており、連携を続けたいとしています。

5. 当財団は、1994 年設立以来、東京 MOU 域内の途上国の PSC 能力向上のために研修を行っており、PSC 研修に関する多くのノウハウを有していますが、本事業により更に多くのノウハウを得ることができました。今後、これを活用し、かつ、IMO などの国際機関との連携も考え、東京 MOU 域内及び他地域 MOU での研修の充実に貢献していきたいです。

6. 最後に、当事業を支援していただいた日本財団、専門家を派遣していただいた豪州、カナダ、チリ及び日本の各国政府機関、寸暇を惜しんでの教材作成、魅力的な講義にするための努力を惜しまなかった講師の方々に感謝と敬意を申し上げます。特にチリ講師には、毎回語学の面で多大なサポートをいただき、その労力に感謝いたします。また、日本の講師は毎回写真や図を多用した手の込んだプレゼンテーションを展開し、他国の講師にも惜しみなく手持ち資料を提供していただき、その労力と寛容性に感謝を述べたいと思います。

添付1

ペルーの事前調査報告書

現地日程表

日	項目	場所
2015年1月21日(水)~ 2015年1月22日(木)	移動(成田~ロスアンジェルス~リマ22日着)	
2015年1月22日(木)	午前：ペルー日本国大使館 芝崎 紀正一等書記官（領事）表敬訪問 午後：ペルー海事庁（Dirección General de Capitanias y Guardacoatas de Perú、英訳 Captaincies and Coast Guard of Peruvian Maritime Authority）訪問 ・幹部表敬訪問 ・研修計画打ち合わせ(出席者は別紙1)	リマ カヤオ
2015年1月23日（金）	午前：カヤオ港視察 午後：研修計画打ち合わせ	カヤオ
2015年1月24日（土）	休日(調査報告まとめ等)	カヤオ
2015年1月25日（日）		
2015年1月26日（月）	宿泊・研修施設見学 研修計画打ち合わせ（続き）	リマ
2015年1月27日（火）~ 2015年1月29日（木）	移動(リマ~ロスアンジェルス~成田29日着)	

1. 調査場所
リマ及びカヤオ（ペルー海事庁、研修施設、港湾施設等）
2. 現地調査派遣者
岡田 光豊 公益財団法人 東京エムオウユウ事務局 顧問
(Secretary of the Tokyo MOU Secretariat)
秋元 文子 公益財団法人 東京エムオウユウ事務局 業務課長
(Projects Officer of the Tokyo MOU Secretariat)

3. 調査概要

3.1 ペルー海事庁との会合（1月22日、23日及び1月26日）

1月22日、カヤオのペルー海事庁 La Dirección General de Capitanías y Guardacostas (英語名 General Directorate of Captaincies and Coast Guard) の司令長官 (Director General de Capitanías y Guardacostas)、 Víctor Emanuel POMAR Calderón 氏を表敬訪問した。長官から、このような地域間協力、PSC 検査官研修の実績とノウハウを持つ東京エムオウユウからの支援に感謝するとの歓迎が述べられた。

表敬訪問のあと、岡田顧問が、東京エムオウユウの活動についてのプレゼンテーションをおこなった。続いて、Director de Control del Interesse Acuaticos の Ludwig ZANABRIA Acosta 氏から、ペルーの PSC 活動についてのプレゼンテーションが行われた。

1月23日と1月26日に、事前に送ってあった計画表と暫定時間割に基づき、早速個々の項目について打ち合わせを開始した。また2日間で、リマの研修・宿泊施設や実習予定地のカヤオの港湾視察も行った。それぞれの会合出席者は別紙1のとおりである。

3日間の打ち合わせで、確認・合意したことは以下の項目である。

3.1.1 トレーニングコースの日程

2015年3月16日（月）～27日（金）

3.1.2 トレーニングコースの場所

クラウンプラザホテル（リマ、ミラフローレス地区）

3.1.3 参加国・参加者数

定員は最大25名とする。ペルー以外の Viña del Mar 加盟14か国からは1名ずつ14名（この内、ホンジュラスからの参加者1名及びパナマからの参加者1名計2名はIMO負担）、IMO負担で、他地域6(ABUJA, Black Sea, Caribbean, Indian Ocean, Mediterranean 及び Riyadh)MOU から各1名計6名、ペルーからは5名の参加者を予定。不参加国が発生した場合は、ペルーから補充するが、計25名を超えないこととする。

3.1.4 講師

日本、カナダ、チリ及びニュージーランドからそれぞれ1名ずつ計4名が決定している。

3.1.5 講義資料

資料は印刷せずに、事務局が全講師の資料を事前に電子ファイル（PDF）をホスト国に送付、ホスト国は電子ファイル（PDF）をバーチャルクラウドにアップロードし、各研修生はそれらを各自ダウンロードすることで同意した。

3.1.6 研修内容

①座学

事前に送付してあった時間割の構成・内容でほぼ合意した。ペルー当局は、Viña del Mar Agreement 事務局から東京エムオウユウ事務局にあらかじめ要請のあった”Fire-fighting system and evakuation systems in passenger ships”も関連講義の中でカバーする案に同意したが、カヤオ港には旅客船はめったに入港しないため、2週目の実習では、旅客船は予定しないこととした。

②実船訓練

(ア) 実船訓練も案のとおり2回で合意。

(イ) リマ・カヤオ港間の移動手段は、ペルー当局が用意する。

(ウ) 参加者を専門家の数である4グループに分け、それぞれのグループにペルーのPSC官を最低1名配置し、そのPSC官がPSCを行い、専門家は彼らのPSCを観察し、PSCの後、参加者を交えグループ毎に討議する方法を取る。

(エ) 実習後の昼食場所、グループ別の討論・翌日のプレゼンテーション資料作りの会場は、カヤオのペルー海事庁の施設を利用するか、リマの研修開催ホテルの会議室を利用するかは、ペルー当局が研修時まで検討する。

③ 合意された時間割は別紙2のとおり。

3.1.7 費用分担

ペルー当局が以下の費用を負担することで合意した。

- ① トレーニング名、スポンサー名などを記したバナー
- ② 文房具、資料コピーの提供（必要になった場合）
- ③ 昼食
- ④ 1日2回のコーヒブレーク
- ⑤ 研修生及び講師の空港ホテル間の送迎
- ⑥ 実船訓練の移動費
- ⑦ 研修生および講師用船上実習用作業衣、ヘルメット、軍手、耳栓等（安全靴は各自持参）
- ⑧ 21日（土）の市内観光
- ⑨ 26日（木）のフェアウエルパーティ

一方、東京エムオウユウが以下の費用を負担することで合意した。

- ① 講師旅費宿泊費
- ② 歓迎パーティ（3月16日月曜日）
- ③ 修了証書

3.1.8 その他

① 言語

研修をより効果的にするために、ペルー当局は、海事に通じたスペイン語・英語間の同時通訳を2名用意するとのことだった。また、ペルー当局 **Internaional Affairs Department** 所属の法律業務担当者にも同席してもらい、通訳の進行をチェックしてもらおうとのことだった。

② 宿泊施設

専門家及び参加者の宿泊は、クラウンプラザホテルとする。ペルー当局がブロックで押さえるが、予約は各自で行うこととする。

3.2 カヤオ港視察（1月23日午前）

カヤオの2つのターミナル APM ターミナルと DB ターミナルを視察した。それぞれ入札により、前者は AP Moller 社が、後者は Dubai Port が建設したとのこと。APM ターミナルは 2011 年に建造され、12 のバースを備えたペルーの最大のターミナルである。見学当日も、バルクキャリアーを中心に、6-7 隻の外国船舶が停泊していた。ペルー当局は、このターミナルで船上実施訓練を行いたい意向。一方、DB ターミナルは 2010 年に建造されたコンテナ船専用ターミナルで、ペルー全体のコンテナ貨物量の約 80%がこのターミナルで扱われるという。年間の平均取り扱い量は 12 億 TEU (1,200,000,000) とのことだった。ペルー当局は、何らかの理由で APM ターミナルに入港する船舶での実施訓練が不可能になった場合に、DB ターミナルを使いたいという意向とのことだった。

3.3 ペルーにおける PSC

① 組織

PSC は、ペルー海事庁 La Dirección General de Capitanías y Guardacostas（英語名 General Directorate of Captaincies and Coast Guard）の Departamento de Marina Mercante（英語名 Directorate of Aquatic Activities Control）で管轄されている。通称 DICAPI。海軍(Marina de Guerra del Perú)の傘下。司令長官（Director General de Capitanías y Guardacostas）は、 Víctor Emanuel POMAR Calderón 氏。

② PSC 官

ペルーには、14 の港があり、外国船が入港する港が全国で 9 港ある。全国の PSC 官は計 55 名。これは、PSC を行う権限を独自に与えられている職員の数で、全員が、現在 PSC に携わっているわけではない。彼らは PSC に専念する期間を限定されて PSC を行っている。それ以外は、海事庁が幅広く抱える他業務を行っている

る。一方、55名の中にはPSC専門職員（PSC以外は行わない職員）が19名いる。彼らは、退職した士官、民間船会社の船長・機関長経験者で、海事庁と契約を結び、公務員としてPSCのみに従事している。カヤオには、このようなPSC専門職員が11名おり、要請があれば他の港にPSCに赴くこともある。

③ PSC体制

PSCには2名で行く。航行停止処分は、PSC官自身が決定、執行できる。その際は、だたちにその地の港長(Harbour Master、ペルー海事庁の管轄)に連絡し、港長が、旗国や船級会社に通報する。一方、船舶の入出港は港湾局（ペルー運輸省の傘下）が管理しているので、航行停止処分を受けた船舶の情報は、港湾局にも流す。

④ PSC統計

Viña del Mar Agreement 事務局が公表している、検査件数に基づくペルーの過去3年のPSC統計は以下のとおりである。

西暦	検査件数*	欠陥数	航行停止処分数	航行停止処分率
2011	271	224	0	0.00%
2012	503	597	4	0.8%
2013	440	273	3	0.68%

* initial inspection のみ

参考：Viña del Mar 地域全体

西暦	検査件数*	欠陥数	航行停止処分数	航行停止処分率
2011	8,710	23,153	107	1.23%
2012	7,194	13,315	91	1.26%
2013	7,409	5,996	73	0.99%

* initial inspection のみ

ペルーでの2014年検査隻数に基づく検査実績は別紙3のとおり。検査率は約80%と、地域目標検査率20%を大きく上回っている。船種別検査実績を見ると、バルクキャリアーが約半数を占めており、次にコンテナ船、一般貨物船の順に続いている。

④ PSC研修

自前の、PSCに特化した研修はないようだ。2014年の6月に、アルゼンチンのPSC当局(Prefectura Naval Argentina)から講師2名を招へいして、座学と実習の研修を行った。ペルーは2013年のエクアドル、2014年でのアルゼンチンでの東京エムオウユウによるPSC研修にいずれも職員を1名ずつ派遣している。また同年、日本で開催する東京エムオウユウの一般研修にも1名を参加させている。

3.5 リマ・カヤオ一般情報

- ① リマは、人口 **850** 万人を擁するペルーの首都である。ペルー総人口の **3分の1** がリマに集中している。
- ② カヤオは、リマから直線距離で **12** キロの港町。海事庁を含む海軍の施設が集中している。
- ③ クラウンプラザホテルがあるのは、リマの新市街のミラフローレス地区。海岸沿いの高級住宅街にある繁華街。治安は良く、夜出歩いても問題はない。治安が悪いのは、旧市街地区。
- ④ タクシーは交渉制。ホテルで依頼可能。ホテルに、事前におおよその値段をきいておくのがよい。
- ③ リマの3月の平均最高気温は **26** 度、平均最低気温は **19** 度。1年を通じて雨がほとんど降らない。
- ④ 英語を解する人は少ない。



Vice Admiral、V́ctor Pomar Calderón 氏 表敬訪問



La Dirección General de Capitanías y Guardacostas の建物



会合出席者



リマ市内



リマ市内

MARINA DE GUERRA DEL PERÚ

Un solo norte, el deber. Tan solo un rumbo, el honor.

(/)

Sobre Nosotros | Contribución al País | Centros de Educación | Autoridades Navales | Comunicación | Elecciones

Comunicación > Novedades > Noticias

Contactenos (contacto) | Inicio (/) | Transparencia (/page/transparencia_peru)

(https://login.microsoftonline.com/) | (http://www.flickr.com/photos/marinadeguerradelperu/) | (http://www.livestream.com/navaltperu) | (https://www.youtube.com/CanalMGPOficial) | (https://twitter.com/eleccionesnaval_peru) | (https://www.facebook.com/MGP.Oficial)

Noticia.

- ▼ Novedades
- ▼ Eventos
- ▼ Comunicación Institucional



Representantes del Memorando de Tokio (MOU) llegarán al Perú para realizar coordinaciones para la realización del curso de Ente Rector de Puerto

Con la finalidad de coordinar la realización del III Curso para Oficiales Supervisores del Estado Rector de Puerto, el 22 de enero arribarán a nuestro país dos representantes de la

Secretaría del MOU de Tokio, visita que se prolongará hasta el día 27, fecha en la cual finalizarán una serie de actividades que permitirán desarrollar con éxito la cita internacional académica a llevarse a cabo en el mes de marzo, la misma que contará con la participación de delegaciones de Armadas de diversos países, entre ellas la Marina de Guerra del Perú a través de la Dirección General de Capitanías y Guardacostas.

Los representantes de la Secretaría del MOU de Tokio son el señor Mitsutoyo Okada y la señora Fumiko Akimoto, quienes a su arribo al país realizaron una visita protocolar al Director General de Capitanías y Guardacostas, Vicealmirante Víctor Pomar Calderón. Al día siguiente, en la sede de la Autoridad Marítima Nacional, se les brindará una exposición de las acciones de control de la Oficina de Estado Rector de Puerto y luego sostendrán una reunión en las empresas APM Terminals y DP World. Posteriormente, los distinguidos visitantes se dedicarán a desarrollar actividades estrictamente relacionados a la coordinación del programa académico y detalles de infraestructura del III Curso para Oficiales Supervisores del Estado Rector de Puerto.

El Memorando de Tokio (MOU de Tokio) es una de las organizaciones más activas de control regional del Estado del Puerto a nivel mundial y consta de dieciocho Autoridades miembros de la región Asia-Pacífico. Su principal objetivo es establecer un régimen eficaz de control a través de la cooperación y la armonización de sus actividades para eliminar los buques deficientes a fin de promover la protección del medio ambiente marino, salvaguardar la vida humana en el mar, las condiciones laborales, así como la habitabilidad dentro de las naves.

La Secretaría del MOU de Tokio reconoció, en el año 2012, al Estado Peruano como Autoridad Miembro Cooperante, motivo por el cual la Dirección General de Capitanías y Guardacostas – Autoridad Marítima Nacional, asume este compromiso de realizar el importante evento académico, el mismo que quedó establecido en el informe final de la XX Reunión del Comité del Acuerdo Latinoamericano sobre Control de Buques por el Estado Rector de Puerto año 2013.

別紙 1

ミーティング出席者名簿

1月22日(カヤオ海事庁)

- Mr. Víctor Pomar Calderón, Vice Admiral, Director General de Capitanías y Guardacoatas
- Mr. Ludwig Zanabria Acosta, Director de Control de Intereses Acuáticos de la Dirección General de Capitanías y Guardacoatas
- Mr. Francisco Miguel Vilchez Castillo, Capitán de Corbeta, Jefe del Departamento de Seguridad y Vigilancia, Acuática de la Capitanía de Puerto del Callao
- Mr. Ivar Alexander Burneo Flores, Capitán de Corbeta, Sub-Dirección de Asuntos Internacionales de la Dirección General de Capitanías y Guardacoatas

1月23日(カヤオ海事庁)

- Mr. Casandra Silva Guionerro, Jefe de la Oficina de Relaciones Públicas e Imagen Institucional
- Mr. Francisco Miguel Vilchez Castillo, Capitán de Corbeta, Jefe del Departamento de Seguridad y Vigilancia, Acuática de la Capitanía de Puerto del Callao
- Mr. Ivar Alexander Burneo Flores, Capitán de Corbeta, Sub-Dirección de Asuntos Internacionales de la Dirección General de Capitanías y Guardacoatas
- Ms. Angelita Tejada Díaz, Jefe del Departamento de Marina Mercante y Estado Rector del Puerto
- Mr. Roberto Castillo, Oficial Supervisor de Estado Rector del Puerto

1月26日(リマ クラウンプラザホテル)

- Mr. Ludwig Zanabria Acosta, Director de Control de Intereses Acuáticos de la Dirección General de Capitanías y Guardacoatas
- Ms. Angelita Tejada Díaz, Jefe del Departamento de Marina Mercante y Estado Rector del Puerto
- Mr. Francisco Miguel Vilchez Castillo, Capitán de Corbeta, Jefe del Departamento de Seguridad y Vigilancia, Acuática de la Capitanía de Puerto del Callao
- Mr. Ivar Alexander Burneo Flores, Capitán de Corbeta, Sub-Dirección de Asuntos Internacionales de la Dirección General de Capitanías y Guardacoatas
- Mr. Roberto Castillo, Oficial Supervisor de Estado Rector del Puerto
- Capt. J. Melgar, Oficial Supervisor de Estado Rector del Puerto
- Ms. Rosanna Rojas, Ejecutiva de Eventos Corporativos, Crown Plaza Hotel

* * *

別紙 2

Tentative Time Table of Expert Mission in Lima, Peru

Date		Activity	Instructor
1-Mar-2015/Sun		Arrival of experts and participants in Lima	
16-Mar-15 Mon	09:00 - 09:30	Opening Ceremony and Introduction (Remarks by Peru, TMOU Secretariat, leading instructor and self-introduction of participants)	
	10:00- 10:30	PSC Activities of Peru	Peru
	09:30- 10:00	Coffee Break	
	10:30 - 11:00	Introduction of Tokyo MOU	TMOU
	11:00 - 11:45	Need for Control (Backgrounds and Legal Basis of PSC)	Chile
	11:45 -12:30	PSC Guidelines for COLREG	Chile
	12:30 -13:30	Lunch	
	13:30 - 15:00	A. 1052 (27) (Chapters 1 – 5)	Canada
	15:00 - 15:30	Coffee Break	
	15:30 - 16:30	PSC Guidelines for SOLAS I	Chile
17-Mar-15 Tue	08:30 - 09:00	RECAP	Leader
	09:00 - 10:00	Ship certificates and documentation along with SOLAS I	Chile
	10:00 - 10:30	PSC Guidelines for MARPOL I	Chile
	10:30 -11:00	Coffee Break	
	11:00 - 12:00	Continued: PSC Guidelines for MARPOL I	Chile
	12:00 - 12:30	PSC Guidelines for SOLAS II-1	Chile
	12:30 - 13:30	Lunch	
	13:30 - 14:00	Continued: PSC Guidelines for SOLAS II-1	Chile
	14:00 - 15:00	PSC Guideline for Load Lines	Japan
	15:00 - 15:30	Coffee Break	
15:30 - 16:00	Continued: PSC Guideline for Load Lines	Japan	
16:00 - 16:30	Questions and answers (or any other activity)	Leader	
18-Mar-15 Wed	08:30 - 09:00	RECAP	Leader
	09:00 - 10:30	PSC Guidelines for SOLAS II-2 including Fire-fighting system on passenger ships	Chile
	10:30 - 11:00	Coffee Break	
	11:00 – 11:30	Continued: PSC Guidelines for SOLAS II-2 including Fire-fighting system on passenger ships	Chile
	11:30 - 12:30	PSC Guidelines for SOLAS III including evacuation system and drills on passenger ships	Japan
	12:30 - 13:30	Lunch	
	13:30 - 14:30	Continued: PSC Guidelines for SOLAS III including evacuation system and drills on passenger ships	Japan
	14:30 - 15:15	PSC Guidelines for SOLAS IV	Canada
	15:15 - 15:45	Coffee Break	
	15:45 - 16:30	PSC Guidelines for SOLAS V including ECDIS	Canada
19-Mar-15 Thu	08:30 - 09:00	RECAP	Leader
	09:00 - 10:00	PSC Guidelines for MARPOL II	Chile
	10:00 - 11:30	PSC Guidelines for SOLAS IX & ISM Code	Canada
	10:30 - 11:00	Coffee break	
	11:00 – 12:00	PSC Guidelines for SOLAS VI, XI-1 (Reg.2) and XII	Canada
	12:00 - 12:30	PSC Guidelines for STCW	Chile
	12:30 - 13:30	Lunch	
	13:30 - 14:00	Continued: PSC Guidelines for STCW	Chile
	14:00 - 15:00	PSC Guidelines for SOLAS XI-1 (Reg.3 & 5), XI-2 & ISPS Code	Japan
	15:00 - 15:30	Coffee Break	
15:30 - 16:00	Continued: PSC Guidelines for SOLAS XI-1 (Reg.3 & 5), XI-2 & ISPS Code	Japan	
16:00 - 16:30	Questions and answers (or any other activity)	Leader	

Date	Activity	Activity	Instructor
20-Mar-15 Fri	08:30 - 09:00	RECAP	Leader Chile
	09:30 - 10:30	PSC Guidelines for MARPOL III, SOLAS VII & IMDG Code	
	10:00 - 10:30	Coffee Break	
	10:30 - 11:30	PSC Guidelines MARPOL IV, V & VI	Japan Canada
	11:30 - 12:30	PSC Guidelines for MLC 2006	
	12:30 - 13:30	Lunch	
	13:30 - 14:30	Deficiency wording & writing exercises	Chile TMOU
	14:30 - 15:00	PSCO Responsibility	
	15:00 - 15:30	Coffee Break	
	15:30 - 16:30	Preparatory work for <u>On-board Inspection 1</u> by group	Peru
21-Mar-15 Sat			
22-Mar-15 Sun			
23-Mar-15 Mon	08:00 -13:00	<u>On-board Inspection 1</u> by group	
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 -16:30	Review of <u>Inspection 1</u> , discussion and preparation for presentations by group (to be interrupted by a coffee break.)	
24-Mar-15 Tue	08:30 -10:00	Presentations of the outcomes of <u>Inspection 1</u> by group	CAN & CHL
	10:00 -10:30	Coffee break	
	10:30 -12:30	Observations by instructors	
	12:30 - 13:30	Lunch	
	13:30 -15:00	Case studies	
	15:00 --15:30	Coffee break	
	15:00 --16:30	Preparatory work for <u>On-board Inspection 2</u> by group (group discussion)	
25-Mar-15 Wed	08:00 -13:00	<u>On-board Inspection 2</u> by group	
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:30 -16:30	Review of <u>Inspection 2</u> , discussion and preparation for presentations by group (to be interrupted by a coffee break.)	
26-Mar-15 Thu	08:30 -10:00	Presentations of the outcomes of <u>Inspection 2</u>	JPN & CHL All instructors
	10:00 - 10:30	Coffee break	
	10:30 -12:30	Observations by instructors	
	12:30 - 13:30	Lunch	
	13:30 - 15:00	Case studies	
	15:00 - 15:30	Coffee break	
	15:30 -16:30	PSC procedures in Canada, Chile & Japan	
27-Mar-15 Fri	08:30 -09:30	RECAP of the course overall	Leader
	09:30 -10:30	Closing Ceremony (Remarks by the host Authority, TMOU Secretariat and a representative of trainers)	
		Awarding certificates to the participants	
	10:30 -11:00	Coffee Break	
		Lunch	

別紙 3

①2014 年におけるペルーでの PSC 統計

	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	TOTAL
Arrived ships (入港延べ隻数)	421	405	397	416	407	441	416	378	417	445	458	419	5,020
Different ships (検査対象隻数)*	61	64	43	75	75	56	48	77	70	51	48	43	711
検査隻数	41	49	37	50	59	44	31	62	65	45	45	42	570
航行停止処分船舶隻数	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
検査率(%)	67.21%	76.56%	86.05%	66.67%	78.67%	78.57%	64.58%	80.52%	92.86%	88.24%	93.75%	97.67%	80.17%
航行停止処分率(%)	0.00%	2.04%	0.00%	0.00%	0.00%	2.27%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.40%

(参考)

検査率地域目標：前年入港純隻数の 20%

* 中南米 PSC 組織の定義では、前回の PSC 検査から 6 カ月以上経っている船 (PSC 対象船舶)。

②2014 年船種別 PSC 実績 (隻数)

	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	TOTAL
BULK CARRIER	21	21	20	32	28	17	13	24	32	14	16	15	253
GENERAL DRY CARGO	2	6	7	5	4	6	2	12	6	13	14	9	86
DREDGE	1	1	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	9
VEHICLES CARRIER	0	5	0	2	6	0	2	7	9	5	7	8	51
WOODEN CHIP CARRIER	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CONTAINERS	5	6	0	7	12	15	5	10	14	12	3	5	94
PASSENGERS	1	1	2	0	0	0	0	1	0	0	1	2	8
CHEMICAL TANKER	0	3	0	0	1	2	5	4	1	0	2	0	18
REFRIGERATED CARGO	1	2	0	0	1	1	1	1	0	0	0	1	8
GAS CARRIER	1	2	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	7
OIL TANKER	9	2	1	3	7	2	3	3	2	1	1	2	36
TOTAL	41	49	37	50	59	44	31	62	65	45	45	42	570

添付 2

ペルーでの研修報告書

現地日程表

日	行動	場所
2015年3月14日(土)	移動(成田空港～ロスアンジェルス～リマ)	
2015年3月15日(日)	準備	
2015年3月16日(月)	<ul style="list-style-type: none">● 開講式● PSCに関する座学研修	クランプラザホテル
2015年3月17日(火)～ 2015年3月20日(金)	PSCに関する座学研修	クランプラザホテル
2015年3月21日(土)	午前中市内観光	
2015年3月22日(日)	休日	
2015年3月23日(月)	<ul style="list-style-type: none">● 第1回PSC実船訓練(計2隻)● 実船訓練レビュー	カヤオ港(DP Terminal) クランプラザホテル
2015年3月24日(火)	<ul style="list-style-type: none">● グループ別実習内容プレゼンテーション及び講師講評● ケーススタディ等	クランプラザホテル
2015年3月25日(水)	<ul style="list-style-type: none">● 第2回PSC実船訓練(計2隻)● 実船訓練レビュー	カヤオ港(DP Terminal 他) クランプラザホテル
2015年3月26日(木)	<ul style="list-style-type: none">● グループ別実習内容プレゼンテーション及び講師講評	クランプラザホテル
2015年3月27日(金)	<ul style="list-style-type: none">● 閉講式 移動(リマ～ロスアンジェルス～成田空港 29日着)	クランプラザホテル

1. 現地派遣者（敬称略）

講師

- 1) Israr Waheed, Senior Marine Inspector, Compliance & Enforcement and Cargo Services, Transport Canada
- 2) Roberto Gaete, PSC Officer in Central South District, General Directorate of the Maritime Territory and Merchant Marine, Chile
- 3) Ricardo Böke Friederichs, Port State Control Officer, Valparaíso, General Directorate of the Maritime Territory and Merchant Marine
- 4) 佐野 博, 国土交通省 神戸運輸監理部 海上安全環境部 首席外国船舶監督官

コーディネーター

- 1) 秋元 文子 公益財団法人 東京エムオウユウ事務局 業務課長 (Projects Officer)

2. 研修主催者

General Directorate of Captaincies and Coast Guard, Peruvian Maritime Authority
(ペルー海事庁)

3. 内容

3.1 開講式

a) 2015年3月16日(月)午前9時より、クラウンプラザの会議室「モーツァルト」にて開講式が開催された。ペルー国家斉唱の後、東京エムオウユウ事務局秋元文子が、岡田顧問 (Secretary) の挨拶を代読した。挨拶は別紙 1 のとおりである。次に、司令長官 (Director General de Capitanías y Guardacostas)、 Víctor Emanuel Pomar Calderón 氏から祝辞をいただいた。祝辞はスペイン語で述べられ、英語に逐語通訳された。祝辞では、東京エムオウユウの協力、日本財団及び国際海事機関 (IMO) の資金援助に感謝の辞が述べた。

b) 集合写真撮影と休憩をはさんで、Ricardo Böke 氏 (チリ) が講師陣を代表し英語で挨拶を行った。式には、PSC 管轄部門で Aquatic Activity Control の Director である Ludwigh Zanabria Acosta 氏と、国際部部長 (Director of International Affairs) の José Gianella Herrena も出席していた。

c) その後、講師及び研修参加者が自己紹介を行った。

3.2 研修参加者及び国際海事機関 (IMO) の資金援助

研修参加者は計 25 名であった。内 8 名に関しては、IMO が参加費用を負担した。参加者の内訳は以下の通りである。

- ① 南米 PSC 地域組織加盟国参加者 (17 名) (参加費用は自国負担)
 - ペルー13名
 - アルゼンチン1名
 - チリ1名

エクアドル 1 名

ペルー 1 名

コロンビアから 1 名が参加予定だったが、欠席した。

② IMO 資金援助者 (8 名)

ホンジュラス(南米 PSC 地域組織) 1 名

パナマ(南米 PSC 地域組織) 1 名

コートジボアール (中西部アフリカ地域 PSC 地域組織) 1 名

トルコ (黒海 PSC 地域 MOU) 1 名

ジャマイカ (カリブ海地域 PSC 組織)

スリランカ (インド洋 MOU) 1 名

ヨルダン (地中海 PSC 地域 MOU) 1 名

バーレーン (リヤド (中近東) PSC 組織) 1 名

全参加者リストは、別紙 2 の通りである。

3.3 座学研修

① 時間割

開講式の後、事務局とペルー当局で事前に合意した時間割に基づき、講義を開始した。なお、時間割は研修開催中に現地での状況等により内容を一部修正し、最終的には別紙 3 とした。

② 各種アレンジ

a) チリの Ricardo Böke 氏は、内外での PSC 研修の講師経験が豊富であること、また、スペイン語を母国語とすることから、同氏を今回の研修の講師チームリーダーに任命し、研修の進行や現地とのコーディネート補佐も引き受けてもらった。

b) 講義は英語で行われた。事前に予定されていた、スペイン語・英語間の同時通訳は、実施されなかった。

c) 全教材はペルー海事当局が、事前にあるいは講義中に参加者が仮想サーバー (Virtual Cloud) から各自教材をダウンロードできるように手配した。但し、ケーススタディの教材は、利便を考え紙で配布した。

d) 座学中、机は教室型に配置された。

③ 研修内容

1 日目 (3 月 16 日 月曜日)

3.1 に記載した開講関連の行事が終わった後、Ludwigh Zanabria Acostax 氏が、ペルーでの PSC 活動に関するプレゼンテーションを行った。

その後、Ricardo Böke 氏 (チリ) が、PSC 成立の背景やの根拠となる条文を説明した「Need

for Control」の講義を行った。

小休憩を挟み、Ricardo Böke氏がCOLREG(海上衝突予防条約)の講義を行った。

続いて秋元文子が、東京MOUの活動に関するプレゼンテーションを行った。

昼食を挟み、Israr Waheed氏(カナダ)が、IMO Resolution A. 1052(27) (Procedures for PSC)の講義を行った。船舶拘留措置(Detention)の定義や、その措置に至る明らかな理由(Clear grounds)等を、実際の事例(写真付き)を交えて説明した。

次に、Roberto Gaete(チリ)氏が以下の講義を行った。

- SOLA(海上人命安全条約)第I章(一般規定)
- SOLAS第I章の講義には、事例研究も含み、参加者は積極的に参加していた。

2日目(3月17日 火曜日)

リーダーのRicardo Böke氏が、昨日の講義に関する質問やコメントを募ったが、特になかったので、時間割に沿って、Böke氏による以下の講義が行われた。

- PSCでチェックすべき証書類

Ricardo Böke氏は、PSCでチェックすべき証書類の例を提示しながら、有効期限などチェックすべき点を挙げた。実例に基づいた講義に、活発に質疑応答が展開された。

小休憩を挟み、Roberto Gaete氏が、以下の講義を行った。

- MARPOL(海上汚染防止条約)附属書I(油汚染防止)

次に、途中で昼食を挟み、引き続きRoberto Gaete氏による以下の講義が行われた。

- SOLAS条約第II-1章(構造・区画、復原性及び機関・電気)

Gaete氏の資料には写真が多く、対話形式で、参加者を巻き込む積極的な講義が展開された。

次に、佐野博氏(日本)が以下の講義を行った。

- ILLC(満載喫水線国際条約)

佐野氏の講義は、前半は規則の要点の説明、後半はPSCでチェックする箇所の欠陥の写真を見せながら、PSC官が見落としがちな点の説明をした。視覚に訴えた講義は好評であった。

3日目(3月18日 水曜日)

リーダーのRicardo Böke氏が、昨日の講義に関する質問やコメントを募ったが、特に挙げられなかったため、時間割に沿って、Böke氏による以下の講義が行われた。

- SOLAS 条約第 II-2 章構造（構造・防火並びに火災探知及び消火）

PSC の手順に沿って、PSC でチェックする箇所、よくある欠陥の写真を多用し、欠陥の根拠となる規則の説明も含んだ、中身の濃い講義となった。

途中に昼食をはさみ、佐野 博氏（日本）が以下の講義を行った。欠陥の箇所の写真も多数使用した実践的講義となった。

- 同条約第 III 章（救命設備）

休憩後、救命艇の落下事故 2 件のビデオを上映した。欠陥の箇所の写真を多数使用した熱のこもった実践的講義となり、予定より 30 分延長された。

休憩後、Israr Waheed 氏（カナダ）が以下の講義を行った。

- 同条約第 IV 章（無線通信）

写真と図と多用したわかりやすい講義を展開した。

4 日目（3 月 19 日 木曜日）

リーダーが、昨日の講義に関する質問を募ったが、特になかったので、Roberto Gaete 氏(チリ)が、以下の講義を行った。

- MARPOL 附属書 II（ばら積み有害液体物質による汚染防止）

プレゼンテーションのスライドには数件のケーススタディが含まれ、参加者は熱心に参加していた。

休憩後、Israr Waheed 氏（カナダ）が以下の講義を行った。

- SOLAS 条約 IX 章(安全運航管理)及び ISM コード (安全管理規則)

講義は 2 題の事例研究も含んでいた。

引き続き、Israr Waheed 氏（カナダ）が以下の講義を行った。

- 同条約 XII 章（ばら積み船の追加要件）、VI 章（貨物の積載）、XI-1 章（検査強化）

講義には演習問題や事例研究が含まれていて、講師は参加者積極的参加を促した。

昼食を間に挟み、Ricardo Böke 氏（チリ）が以下の講義を行った。

- STCW（船員訓練当直条約）－ Manila Amendments

最新の情報の提供に、参加者からは好評であった。

次に、佐野 博氏が以下の講義を行った。

- SOLAS X1-2 章（海上保安強化）及び ISPS コード（船舶及び港湾の保安規則）

写真を多用したわかりやすい講義は、好評を博した。

5 日目（3 月 20 日 金曜日）

リーダーが、昨日の講義に関する質問を募ったが、特になかった。リーダーは本日の予定を述べた後、Roberto Gaete 氏(チリ)が以下の講義を行った。

- MARPOL 付属書 III (容器収納有害物質による汚染防止)、SOLASVII 章 (危険物の運送)、IMDG コード (国際海上危険物規則)
手の込んだプレゼンテーションに、参加者は真剣に耳を傾けていた。

休憩をはさみ、佐野 博氏が以下の講義を行った。

- MARPOL 付属書 IV (汚水による汚染防止)、同付属書 V (廃物による汚染防止)、同付属書 VI (大気汚染防止)
大気汚染防の話題に時間を取られた様子だった。今後の時間配分の参考としたい。

続いて、Israr Waheed 氏 (カナダ) が次の講義を行った。

- MLC (海上労働条約)
参加者の多くの国は批准の準備段階であったが、活発な質疑応答が展開された。

間に昼食を挟み、引き続き Israr Waheed 氏が次の講義を行った。

- SOLAS 第 V 章 (航行の安全)
講義には、別途 ECDIS (電子海図情報表示装置)のプレゼンテーションも含まれていた。

休憩後、Ricardo Böke 氏が以下のプレゼンテーションと演習を行った。

- 欠陥の書き方(PSC Deficiency Wording)

これは、インド洋 MOU 地域における PSC 研修においてオーストラリア講師が実施し、参加者から好評を博したので、南米 PSC 地域でも初めて取り入れた。英語を母国語とする講師の視点で作られた資料は、英語を母国語としない参加者が英語で欠陥を描写する際の参考になったと非常に好評であった。

東京 MOU 事務局が講師を予定していた、PSC 職員の責任(PSCO Responsibility)と船主・旗国等からのアピール (不服申し立て) は、進行が予定より遅れているので省略した。

④ 座学研修中の状況と課題

a) 研修参加者

i. ペルーからの参加者 (13 名)

主として PSC を専門とする PSC 職員 4 人も含まれていた。他は旗国検査官等との兼任である。PSC の経験は、様々だった。英語力は皆十分にあったが、講義中は比較的小となしかった。業務の都合で初日を除いて全員が集まることはなく、多忙な日常がうかがわれた。ただ、時間外の雑談を通じて、研修の内容を把握し、今回の研修を貴重な機会ととらえていることがわかった。昨年 PSC に特化した研修がアルゼンチンから講師を招いて開催されているが、ペルー国内に講師がいないため、学ぶ機会が限られているとのことだった。

ii 南米 PSC 地域内からの参加者 (6 名)

アルゼンチン 1 名、チリ 1 名、エクアドル 1 名、ホンジュラス 1 名 (IMO 費用負担)、パナマ 1 名 (IMO 費用負担)、合計 6 名が参加した。経験豊富な参加者が多かった。どの参加者も英語も堪能で、英語での講義の受講に支障はないように見受けられた。

iii 他地域からの IMO 招へい者 (6 名)

コートジボアール 1 名、ヨルダン 1 名、トルコ 1 名、ジャマイカ 1 名、スリランカ 1 名、バーレーン 1 名計 6 名であった。皆一様に、真剣に講義に参加していた。どの参加者からも、PSC に特化した研修の受講の機会を逃すまいとする気概が感じられた。PSC 経験は、南米からの参加者に比べると比較的少ないようだった。トルコの参加者は、トルコが加盟している黒海 MOU (Black Sea MOU) の活動をフォローする責任者であった。ヨルダンの参加者は、PSC 管轄部署の長 (Head of PSC Department) であるが、現場での経験が少ないように感じられた。スリランカの参加者は、スリランカで 2016 年の 6 月に予定されている VIMSAS (IMO による加盟国監査) に備え、国内の PSC 体制を整える必要があり、真剣に参加していた。

b) 教材

前回、前々回の反省を生かし、講義間での講義内容のダブリはかなり排除出来た。

c) 講師ミーティング

講師陣と事務局は頻繁にミーティングをし、互いに把握した各研修生の経験やレベルの情報交換や、講義の手法、時間の配分等について話し合った。

3.4 実地研修

① グループ分け

講師陣は、各参加者全員に PSC 経験、英語の習得度や乗船経験等について事前にアンケートを取り、それを基に経験や英語力が偏らないように、事前に組み分けをした。講師 4 人が 1 グループずつ担当するよう、計 4 グループに分けた。

② 実船訓練実施要領

3 月 20 日 (金) の講義終了後に、3 月 23 日 (月) に実施予定の実船訓練の実施要領について、ペルー当局との打ち合わせ内容を踏まえ、講師リーダーの Ricardo Böke 氏がパワーポイントで要点等を示しながら、下記の通り説明した。

a) 講師やペルー以外の参加者は、ペルー国内で PSC を行う権限がないため、ペルーの PSC 官の PSC を観察するのみとし、気付いた点は訓練終了後の討論会で指摘する。

b) PSC 後はグループ毎にレビューを行い、実習中の疑問等を解決する。また実習内容のプレゼンテーションを作成する。

c) 実習の翌日、グループ毎に、PSC の手順に沿って発表を行う。講師は、観察事項や実習についてそれぞれ講評を行う。

d) 実習船が 4 隻確保出来ない場合は、実習に参加できない参加者は、ホテルでケーススタディ等を行うなど、臨機応変に対応する。

③ 実船訓練

6日目 実船訓練及びレビュー (3月23日 月曜日)

a) 第1回実船訓練

前日夜 7 時に講師陣でミーティングを持った。その時点で翌日訓練を実施出来そうな船の情報はなかったが、翌日確保できる実習船の数に依って、臨機応変に対処することとし、手順を確認した。午前 7 時に全員がクラウンプラザホテルロビーに集合した。ペルー海軍のバスでカヤオのペルー海事局に行き、そこで待機していたペルーの PSC 官から 2 隻のコンテナ船で行うとの報告を受けた。

その後 DB ターミナルの講堂にて、安全・保安に関するインストラクションを受け、DB ターミナル専用バスでそれぞれの船に向かった。

事前の打ち合わせ通り、参加者を半分に分け、それぞれのコンテナ船で実船訓練を行った。実習船の詳細は別紙 4 の通りである。東京 MOU 事務局職員が参加した実習では、ペルー PSC 官の時間配分等に改善の余地があるという印象だった。もう一方のグループの実習船は、前回 PSC から 6 カ月未満の船だったので(南米 PSC 地域組織では、前回の PSC から 6 カ月以上過ぎないと PSC を行わない)、模擬 PSC を行った。船長に事前に許可を取り、欠陥があったら忠告はするが、データベースには残さないことという条件で模擬 PSC を行った。PSC を行ったのが民間の船長出身の PSC 官で、経験に基づいた、効率の良い PSC を執り行ったとのことだった。

b) 実習のレビュー

下船後の各グループは、グループ毎に実習の内容を振り、翌日のプレゼンテーションも作成した。

7日目 第1回実船訓練発表及びケーススタディ等 ((3月24日 火曜日)

a) 実船訓練発表

各グループ代表者が写真を用いながら、前日に行った PSC について、チェックした箇所、気付いた点、実際に取った処置等を発表した。講師の指示で、航行停止処分に至らなかった軽微な欠陥についても、演習としてプレゼンテーションには根拠条文を記すこととした。講師、参加者が討議し、非常に活発な議論が展開された。前週金曜日の Deficiency Wording の講義・演習に基づいて、指摘した欠陥について、“Where? What? + condition”が書かれているか等で、議論は更に盛り上がった。

b) 講師による船上実習 1 回の講評

船上実習にオブザーバーとして参加した、佐野 博氏 (日本) と Israr Waheed 氏 (カナダ) が、それぞれの実習の講評をした。両名ともパワーポイントで写真を示しながら、要改善点や見落としした点などを指摘した。佐野氏は、根拠条文も提示しながら丁寧に指摘し、参加者から好評を博した。佐野氏の指摘事項のスライドの一部は別紙 5 の通りである。

c) Virtual PSC

チリ講師 Roberto Gaete 氏による、Virtual PSC (仮想 PSC)が行われた。参加者は PSC を机上で模擬体験した。

d) ケーススタディ

佐野 博氏 (日本) 主導による、ケーススタディ 3 題が行われた。参加者は 4 つのグループで、それぞれが話し合い、結論を発表した。活発な意見交換が展開された。

8 日目 実船訓練及びレビュー (3 月 25 日 水曜日)

a) 第 2 回実船訓練

午前 7 時に全員がクラウンプラザホテルロビーに集合したが、事故渋滞でバスの到着が 8 時となった。バスの中で、ペルー当局より、コンテナ船 1 隻、バルクキャリアー 1 隻計 2 隻 (詳細は別紙 4) にて実習を行うことが発表された。コンテナ船は、DB ターミナルのバースで、バルクキャリアーは沖で PSC を実施すると発表された。

事前の打ち合わせ通り、2 グループに分かれ、それぞれのコンテナ船で実船訓練を行った。実習船の詳細は別紙 4 の通りである。ペルー PSC 官が PSC を行った。東京 MOU 事務局職員が参加した実習 (コンテナ船) では、グループを 2 班に分け、船側にはそれぞれの班に案内人を付けてもらった。船側の負担は増えてしまったが、前回より効率的な PSC が出来た。もう一方のバルクキャリアー実習では、書類チェックとデッキを担当するチームと、エンジンルームとブリッジを担当するチームに分けて、実習を行った。

b) 実習のレビュー

下船後の各グループは、グループ毎に実習の内容を振り、翌日のプレゼンテーションも作成した。

9 日目 実船訓練発表及びケーススタディ等 (3 月 26 日 木曜日)

① 研修生による実習内容の発表

各グループ代表者(前回とは異なる発表者)が、写真を用いながら前日に行った PSC について、チェックした箇所、気付いた点、実際に取った処置等を発表した。各欠陥の根拠条文も示された。前回同様、講師参加者間、参加者間同士で非常に活発な議論が展開された。

c) 実船訓練のオブザーバーを代表して、Ricardo Böke 氏が講評を行った。Böke 氏は、自信がなければ欠陥として記録しないことを強調した。

d) ケーススタディ

途中に昼食を挟み、佐野 博氏 (日本) 主導による、ケーススタディ 6 題が行われた。参加者は 4 つのグループで、それぞれが話し合い、結論を発表した。その後、佐野氏は、解答をパワーポイントで提示した。前回同様、活発な議論が展開され、参加者からは非常に

好評であった。このケーススタディをもって、全講座が終了した。

④ 船上実習の状況と課題

(全般)

観察する限りでは、ペルーPSC官の時間配分やForm Bの記入等において全般的に経験が浅いように見受けられ、特に時間配分に改善の余地が見られた。大半のPSC官が旗国検査などの他業務を兼務しており、PSCに関する訓練を十分に受けられていないことが大きな原因と思われる。

(措置コード)

ペルーでは、指摘した欠陥に対して出航までには是正するよう指示した場合、PSC官が再訪船し是正を確認後、出港を認めている。その場合、総トン数によって再訪船料を徴収しているとのことだった。しかし、ペルーの内部規定には、出航前の是正を出来る限り避けるよう規定されており、次港での是正を指示することが多いとのことであった。

(その他)

ペルー当局の、実習当日のPSC対象船の情報は早く的確であり、また港までの交通手段の手配も効率よく、計画通りに実習をすることが出来た。

3.5 参加者の研修全般に対する講評

最終日、参加者全員がひとりずつこの研修に対する印象や意見を発表する機会を設けた。全員が、有意義な研修であり、充実した内容の講義を提供している講師、研修を企画した東京MOU事務局、ペルー海事当局への感謝を述べた。レベルが高く内容が充実していた研修と述べる参加者も多かった。講師もそれぞれやり甲斐のある2週間だったと述べ、提供したプレゼンテーションを積極的に活用してほしいと述べた。

3.6 閉講関連行事

10日目閉講式(3月27日 金曜日)

閉講式と修了証書授与式が開催された。ペルー当局からは、Victor Emanuel Pomar Calderón 司令長官の他、閉講式にも出席したLudwigh Zanabria Acosta氏、José Gianella Herrena氏も出席した。ペルー国歌斉唱の後、まず講師を代表してRicardo Böke氏(チリ)が挨拶を行った。続いて、Pomar氏と東京MOU事務局による各研修生への修了証が行われた。引き続き、Pomar氏より、講師への感謝状の手交が行われた。

次に、東京MOU事務局の挨拶とPomar氏の祝辞(英語への逐次通訳)が続いた。Pomar氏は、東京エムオウユウの協力、日本財団及び国際海事機関(IMO)の資金援助に対し感謝の意を強調した。

2週間に亘る研修はこれで幕を閉じた。

4. 研修全体を振り返って

① ペルーにおける PSC

(全般)

2013 年及び 2014 年におけるペルーの検査率（入港した外国船の入港隻数のうち、PSC を実施した船舶数の割合）はそれぞれ 80%以上と、南米 PSC 協定地域目標検査率の 20%を大きく上回っている。2012 年東京 MOU の準メンバーとなって以来、PSC 向上に国を挙げて取り組んでいる様子が見えてくる。PSC 官研修にも力を入れ始め、2014 年東京 MOU 主催の一般研修(General Training Course)に 1 名が参加した。また昨年からは、アルゼンチンより講師 2 名を招き、座学と実習の国内研修を実施している。

実習を通じて感じたのは、ペルー海事局の士官は全体的な傾向として PSC の経験が浅いことである。他業務を兼務し、PSC に専念できない、また PSC 官の異動が頻繁にあるため、腰を据えて PSC を学べない等の事情があるようだ。現在ペルーの PSC を支えているのは、退職した士官、民間船会社の船長・機関長経験者の PSC 官である。彼らは、士官の PSC 官を教える任務も担っているようだ。

② 他国からの参加者

他国からの参加者は、経験を積んでいる者がほとんどだった。ただ、自国や地域 MOU には PSC に特化した研修がなく、この研修から学ぼうという意欲が感じられた。

③ 講師陣の指摘事項

講師陣には別途、講師の立場から今回の研修の評価を書面にて提出してもらった。以下に、それらの講評や示唆をまとめたものを示す。

a) 座学

講義は基本的なルールの説明は省略して、規則の改正と具体的な欠陥の見つけ方及びその判断に関わる規則の運用などに限定して講義すれば各研修生のレベルも具体的に向上するのかもしれない。

b) 実船訓練

- どの研修生も真剣に取り組んでいた。PSC の経験が少ない参加者も、PSC の回数をこなせば更なる技術の向上が達成されるのではないかと感じた。
- 講義で欠陥事例として取り上げた例及び講義内容を基に実船訓練を実施しており、また 研修生は第 1 回目のレビューを取り入れ、第 2 回目の実習では更に技能を向上させていた。これらにより今回のトレーニングは有効であると感じさせられた。
- 実習船がそれぞれ 2 隻ずつしか確保できなかったため、大人数での実習は船側の負担となった。半分は、室内で、Virtual PSC（仮想 PSC）やケーススタディという方法もあったかもしれない。

c) ケーススタディ

- 実際の事例に基づいた設問は、リアリティがあり、参加者に考える

機会を与え、議論も生んだ。

- 研修生のレベル、講義のフォローアップとしてケーススタディーの設問は、講義全体の見直しとして有効であると思われる。

d) 全般

- 参加者の評価が全体的に高くよかった。
- 事前に参加者の PSC 経験の情報が欲しかった。ペルー参加者の一部が、研修中も日常業務に戻らざるを得ず、全部に参加できなかったのは残念だった。
- 講師が事前に研修生の PSC のレベルを把握することは難しい。研修期間中に、各研修生のレベルや要求に合うよう講義資料を必要に応じ変更する必要があった。
- 講師間での打ち合わせを頻繁に行い、予期しなかった状況にも柔軟に対応できたのはよかった。
- 東京エムオウユウ事務局を含めた講師陣のチームワークのよさが、今回の成功の原因である。

3. 研修全体に対する参加者の講評

別紙 6 に、各研修生の研修全体に対する講評を転記した。非常に有益だったとの声が多かった。内容に関しては、より実践的な演習を望む声が多かったが、総じて有意義だったとの声が多かった。

4. 今後の展望

南米 PSC 地域での第 3 回(最終回)の「出前研修」は、ほぼ予定通り終了した。参加した PSC 官が、この研修で得た知識及び経験を活かし、彼らの国と地域において、検査の質の向上が図られることを願っている。多くの参加者は、それぞれの国で、今回の研修に資料を利用して自国 PSC 官用の研修を早急に行うと語っていた。

東京エムオウユウが培った研修のノウハウが、発展途上にある他地域 MOU 等の手助けになることを改めて実感した。今回の研修が好評を博し、成功裏に終わったのは、講師としてご協力いただいた、カナダの Israr Waheed 氏、チリの Ricardo Böke 氏及び Roberto Gaete 氏、国土交通省の佐野 博氏のご尽力の賜物に他ならない。

特にチリ講師 2 名には通訳もお願いすると同時に、Ricardo Böke 氏には講師陣リーダーを務めていただき、多岐にわたりご貢献いただいた。

各講師からは”rewarding”（やり甲斐があった）であったとの感想をいただきたい。この場を借りて各講師に深く感謝を申し上げたい。同時に、今回の研修のホストであった Peruvian Maritime Authority、共催者である南米 PSC 地域組織事務局と国際海事機関（IMO）の全面的な協力があつてこそ、円滑に実現ができた。改めてお礼を申し上げたい。3 年間で閉めるにふさわしい、内容の濃い研修であった。

研修会場に飾られたバナー



開講式（2015年3月16日）風景





講師陣と事務局



講義風景



講師 Ricardo Böke 氏 (Chile)

講義風景



講師 Roberto Gaete 氏 (Chile)



講師 Israr Waheed 氏 (Canada)



受講者



講師 佐野 博氏(国土交通省)

実船訓練



実船訓練のプレゼンテーション



講師講評



閉講式 (2015年3月27日)





NOTICIAS ACTUALES

Inauguran III Curso para Oficiales Supervisores del Estado Rector del Puerto

Clausuran III Curso Avanzado para Oficiales Supervisores sobre el Control de Buques por el Estado Rector del Puerto

Jornada de limpieza en la ribera del lago Titicaca

Capitanía de Puerto de Yurimaguas interviene recurso forestal de dudosa procedencia

Autoridad Naval de la Real Armada de Canadá visitó COMOPERGUARD

Evacúan a 20 personas de muelle afectado por oleaje anómalo



En el Hotel Crown Plaza de Miraflores, el día 16 de marzo el Director General de Capitanías y Guardacostas, Vicealmirante Víctor Pomar Calderón, inauguró el III Curso para Oficiales Supervisores del Estado Rector del Puerto, acto que contó con la presencia de la señora Fumiko Akimoto, representante de la Secretaría del MOU

 Enlaces de Interés

Jr. Constitución 150 - Callao
Central Telefónica (511) - 209 9300

 Enlaces de Ley

別紙 1

東京エムオウユウ事務局による開会の挨拶

Vice Admiral Víctor Pomar Calderón

PSC officers from Peru, Argentina, Brazil, Chile, Ecuador, Honduras, Panama, Cote d'Ivoire, Turkey, Jamaica, Sri Lanka, Jordan and Bahrain

Instructors from Canada, Chile and Japan

Ladies and Gentlemen,

On behalf of Mr. Mitsutoyo Okada, Secretary of the Tokyo MOU Secretariat, I would like to express my sincere appreciation to the Peruvian Maritime Authority and the Viña del Mar Agreement Secretariat for inviting us to the third training course on Port State Control in Viña del Mar Agreement region. We have come over here to share PSC procedures and experiences with you.

It is no longer necessary to emphasize how important and effective PSC is in maritime safety and security. The world has identified the importance and the significance of PSC, and it is for this reason that as many as nine PSC regimes have been established in the world so far. Each of the PSC regimes is making continued effort to introduce uniformed PSC procedures and spread them among its region.

In the Tokyo MOU, unlike in the Paris MOU, our members have a variety in the development in PSC, and therefore the Port State Control Committee in our MOU pays special attention to the development of training for PSC officers in our region. The total number of PSC officers who have participated in our training courses amounts to more than 1,000. As a result, in recent years, more than 30,000 of inspections have been recorded in the Tokyo MOU. At the same time, know-how of organizing and implementing trainings has been accumulated in the Tokyo MOU.

Other than trainings for PSC officers in the Tokyo MOU region, the Tokyo MOU has had a challenge to deliver PSC training courses in the Indian Ocean MOU region since 2009 at the request of the Indian Ocean MOU Secretariat. All of the training courses were successful. Today we are here to organize the third and the PSC training in the Viña del Mar region at the request of the Viña del Mar Agreement Secretariat, not because we are rich, but we felt the imminent need to strengthen inter-regional cooperation among the MOUs for enhancing standardization of PSC procedures in the world based on the recognition that ships are sailing across regional MOUs. We are here to share with you, based on the IMO Resolution A.1052 (27), common understanding and interpretation of conventions and regulation relevant to PSC. IMO shares this view, and following the previous two trainings in Guayaquil, Ecuador, in

2013; and Buenos Aires, Argentina in 2014, the Organization provides funds in order to allow six PSC officers from other regions and two from this region to participate in this course.

The Tokyo MOU Secretariat would like to take this opportunity to express its sincere appreciation to the Viña del Mar Agreement Secretariat and the Peruvian Maritime Authority to initiate this project.

As instructors for this course, we invited four: from Canada, Chile and Japan. I would like to thank the Nippon Foundation for providing funds for the instructors and myself as a coordinator to come and stay here.

I hope the training will be fruitful and all of us will have a good time here in this beautiful and historical city for two weeks. I, on behalf of the Tokyo MOU Secretariat, would like to thank again for the Peruvian Maritime Authority to host this training and its staff who have been working hard behind the scene to organize this training.

Thank you for your attention.

* * *

別紙 2
参加者リスト

1. ペルーからの参加者 (13名)

1	Mr. Edson Javier Fano Espinoza
2	Mr. Gustavo Enrique Livia Rosas
3	Mr. Pedro Alarcon Garro
4	Mr. Víctor Hugo Avalo Valiente
5	Mr. Francisco Vilchez Castillo
6	Ms. Angelita Tejada Díaz
7	Mr. Marco Caceres Jave
8	Ms. Casandra Silva Gurrionero
9	Mr. Paulo Sierra Valer
10	Mr. Roberto Castillo Fiestas
11	Mr. Jean Melgar Córdova
12	Mr. Miguel Mina Bellido
13	Mr. Juan Córdova Tudela

2. Viña del Mar 地域ペルー以外からの参加者 (6名)

13	Mr. Mariano Alfredo Torres	アルゼンチン
14	Mr. Paulo Moreira Da Silva	ブラジル
15	Mr. Rene Eduardo Ramirez Corvalan	チリ
16	Mr. Luis Eduardo Ayala Egas	エクアドル
17	Mr. Luis Guillermo Alvarez Alvarez	ホンジュラス (IMO 費用負担)
18	Mr. Roberto Rodriguez Paredes	パナマ (IMO 費用負担)

3. 域外参加者 (7名) (IMO 負担)

19	Mr. N'Guessan Kouadio	Abuja MOU	コートジボアール
20	Mr. Fatih Yilmaz	Black Sea MOU	トルコ
21	Mr. Austin Lobban	Caribbean MOU	ジャマイカ
23	Mr. Bandula Kariyawasam	Indian Ocean MOU	スリランカ
24	Mr. Walid Ismail Ishaq Alhannini	Mediterranean MOU	ヨルダン
25	Mr. Salah Hasan Saad Saleh Al Hasan	Riyadh MOU	バーレーン

別紙 3
時間割

Date		Activity	Instructor
15-Mar-2015/Sun		Arrival of experts and participants in Lima	
16-Mar-1 5 Mon	09:00 - 09:30	Opening Ceremony and Introduction (Remarks by Peru, TMOU Secretariat, leading instructor and self-introduction of participants)	
	10:00- 10:30	PSC Activities of Peru	Peru
	09:30- 10:00	Coffee Break	
	10:30 - 11:35	Need for Control (Backgrounds and Legal Basis of PSC)	Chile (RB)
	11:35 - 11:45	Break	
	1:45 -12:40	PSC Guidelines for COLREG	Chile (RB)
	10:30 - 11:00	Introduction of Tokyo MOU	TMOU
	13:00 -14:40	Lunch	
	13:30 - 15:05	A. 1052 (27) (Chapters 1 – 5)	Canada
	15:05 - 15:30	PSC Guidelines for SOLAS I	Chile (RG)
	15:30 - 16:30	Coffee Break	
16:00 - 16:20	Continued: PSC Guidelines for SOLAS I	Chile (RG)	
17-Mar-1 5 Tue	08:30 - 08:40	RECAP	Leader
	08:40 - 10:00	Ship certificates and documentation along with SOLAS I	Chile (RB)
	10:00 -10:30	Coffee Break	
	10:30 - 10:30	PSC Guidelines for MARPOL I	Chile (RG)
	11:00 -12:15	Continued: PSC Guidelines for MARPOL I	Chile (RG)
	12:15- 12:30	Break	
	12:30 - 13:00	PSC Guidelines for SOLAS II-1	Chile (RG)
	13:00- 14:00	Lunch	
	14:00 - 14:45	Continued: PSC Guidelines for SOLAS II-1	Chile (RG)
	14:45 - 15:15	PSC Guideline for Load Lines	Japan
	15:15- 15:45	Coffee Break	
15:45 - 16:20	Continued: PSC Guideline for Load Lines	Japan	
18-Mar-1 5 Wed	08:30 - 08:40	RECAP	Leader
	08:40 - 10:30	PSC Guidelines for SOLAS II-2 including Fire-fighting system on passenger ships	Chile (RB)
	10:30 - 11:00	Coffee Break	
	11:00 – 11:30	Continued: PSC Guidelines for SOLAS II-2 including Fire-fighting system on passenger ships	Chile (RB)
	11:30 - 12:30	PSC Guidelines for SOLAS III including evacuation system and drills on passenger ships	Japan
	14:00 - 15:30	Lunch	
	15:30 - 16:00	Continued: PSC Guidelines for SOLAS III including evacuation system and drills on passenger ships	Japan
16:00 - 16:40	Coffee Break		
16:00 - 16:40	PSC Guidelines for SOLAS IV	Canada	
19-Mar-1 5 Thu	08:30 - 08:40	RECAP	Leader
	08:40 - 10:00	PSC Guidelines for MARPOL II	Chile (RG)
	10:00 - 10:30	Coffee break	
	10:30 - 11:30	PSC Guidelines for SOLAS IX & ISM Code	Canada
	11:30 – 12:05	PSC Guidelines for SOLAS VI, XI-1 (Reg.2) and XII	Canada
	12:05 - 13:05	PSC Guidelines for STCW	Chile (RB)
	13:05 - 14:00	Lunch	
	14:00 - 14:30	Continued: PSC Guidelines for STCW	Chile (RB)
	14:30 - 15:00	PSC Guidelines for SOLAS XI-1 (Reg.3 & 5), XI-2 & ISPS Code	Japan
	15:00 - 15:30	Coffee Break	
15:30 - 16:3	Continued: PSC Guidelines for SOLAS XI-1 (Reg.3 & 5), XI-2 & ISPS Code	Japan	

Date	Activity	Activity	Instructor
20-Mar-15 Fri	08:30 - 08:40	RECAP	Leader Chile (RG)
	08:40 - 09:50	PSC Guidelines for MARPOL III, SOLAS VII & IMDG Code	
	09:50 - 10:20	Coffee Break	Japan Canada
	10:20 - 11:30	PSC Guidelines MARPOL IV, V & VI	
	11:30 - 12:40	PSC Guidelines for MLC 2006	Canada
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 - 15:15	Continued: PSC Guidelines for SOLAS V including ECDIS	
	15:15 - 15:45	Coffee Break	
21-Mar-15 Sat	15:45 - 16:30	Deficiency wording & writing exercises	Chile (RB) Peru & Leader
	16:30 - 17:30	Preparatory work for <u>On-board Inspection 1</u> by group	
22-Mar-15 Sun		City tour	
23-Mar-15 Mon	07:00 - 13:00	<u>On-board Inspection 1</u> by group	
24-Mar-15 Tue	14:00 - 15:00	Lunch	Chile Japan Japan
	15:30 - 16:30	Review of <u>Inspection 1</u> , discussion and preparation for presentations by group	
	08:30 - 10:15	Presentations of the outcomes of <u>Inspection 1</u> by Group 1 & Observations by instructors	
	10:15 - 10:45	Coffee break	
	10:45 - 13:00	Presentations of the outcomes of <u>Inspection 1</u> by Group 2 & Observations by instructors	
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 - 14:30	Virtual PSC	
	14:30 - 15:00	Case studies	
15:00 - 15:30	Coffee break	Japan	
14:30 - 16:00	Continued: case studies		
16:00 - 16:15	Preparatory work for <u>On-board Inspection 2</u> by group (group discussion)		
25-Mar-15 Wed	08:00 - 13:00	<u>On-board Inspection 2</u> by group	
26-Mar-15 Thu	13:00 - 14:00	Lunch	Japan All participants Instructors
	14:30 - 16:30	Review of <u>Inspection 2</u> , discussion and preparation for presentations by group	
	08:30 - 9:40	Presentations of the outcomes of <u>Inspection 2</u> by Group 1 & Observations by instructors	
	9:40 - 9:55	Continued: Presentations of the outcomes of <u>Inspection 2</u> by Group 2 & Observations by instructors	
	9:55 - 10:30	Coffee break	
	10:30 - 11:10	Continued: Presentations of the outcomes of <u>Inspection 2</u> by Group 2 & Observations by instructors	
	11:10 - 13:00	Case studies	
	13:00 - 14:00	Lunch	
14:00 - 15:00	Continued: Case studies	Japan All participants Instructors	
15:00 - 15:30	RECAP of the course overall		
15:30 - 16:00	Coffee break		
27-Mar-15 Fri	08:30 - 09:30	Closing Ceremony Remarks by the leading trainer, Awarding certificates to the participants and the trainers Remarks by TMOU Secretariat Remarks by host Authority	
	09:30 - 10:00	Coffee Break	

別紙 4
実船訓練船リスト

実施日：2015年3月23日（月）

グループ 1（同行者：Israr Waheed 氏(カナダ) 及び Richard Böke（チリ））

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Year of Build	Class	Detention
ASTURIANO	9299628	Container ship	91,410	France	2005	BV	No

グループ 2（同行者：Roberto Gaete 氏（チリ）、佐野 博氏（日本）及び秋元文子(事務局)）

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Year of Build	Class	Detention
WARNOV ORCA	9395111	Container ship	15,375	Antigua & Barbuda	2007	GL	No

実施日：2015年3月25日（水）

グループ 1（同行者：Roberto Gaete 氏（チリ）、佐野 博氏（日本））

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Year of Build	Class	Detention
GENCO BOURGOGNE	9490662	Bulk carrier	32,837	Marshall Islands	2010	DNV	No

グループ 2（同行者：Israr Waheed 氏(カナダ)、Richard Böke（チリ）及び秋元文子(事務局)）

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Year of Build	Class	Detention
MSC BILBAD	9301495	Container ship	89,941	Portugal	2005	GL	No

別紙 5

佐野講師の提言（スライド一部抜粋）

Suggestions

- If a list of documents to be checked had been presented, a more efficient and effective PSC inspection could have been conducted with enough time.
- We did not have enough time to go to:
Forecastle, under the deck passage, CO2 room, fire control station, galley, etc.

Mooring ropes



- Some strings of mooring ropes for aft spring line and aft lines were broken apart at different places.
- Captain told me that there are no maintenance of mooring rope.
- More detailed inspection regarding ISM maintenance procedure should have been carried out.

Mooring ropes (Cont.)

- SOLAS II-1/R3-1 Structural, mechanical and electrical requirements for ships

“In addition to the requirements contained elsewhere in the present regulations, ships shall be designed, constructed and maintained in compliance with the structural, mechanical and electrical requirements of a classification society which is recognized by the Administration in accordance with the provisions of regulation XI-1/1, or with applicable national standards of the Administration which provide an equivalent level of safety.”

別紙 6
研修生の研修全般に対する講評

Participant 1 from other MOU

Congratulations to all for the success of this training. It was entirely up to my expectations.

Participant 2 from other MOU

In generally, the training was good. Specially thanks to Tokyo MOU and Viña del Mar Agreement Secretariat and members and specially thanks to Peruvian Maritime Authority.

Participant 3 from other MOU

I would recommend more practical inspection training in different type of vessels.

Participant 4 from other MOU

This training programme is well organized and conduct as per given training programme schedule and subject if any possibility all MOU's should work together and arrange more training programme. Behalf of Sri Lanka Maritime Administration, I thank Peru Maritime Administration and Tokyo MOU, IMO and experts lectures.

Participant 5 from other MOU

Thanks a lot for the host, instructors, Peru Maritime Authority and all my colleagues who participated.

Participant 6 from other MOU

Recommendation, to make for the participants easy way to resolve the cases of the PSC, it need to distribute a hard or soft copy of the conventions to the participants in the future.

Participant 1 from Vña del Mar Agreement

Course like this should be realized with more frequency.

Participant 1 from Peru

Evaluate the possibility to introduce more PSC onboard training in the program.

Participant 2 from Peru

Many thanks to our instructors and colleagues for share experience of many years of job and study.